

Eternity

永遠につづくみち

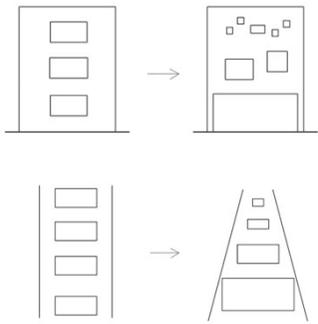
Concept

+ × ÷ と聞きやはり数学が頭に浮かんだ。そこで数学とは∞という答えが時にはあり、限られた範囲ではなく永遠に続いていると感じた。

そして、人生は出会いがあったり、1人で思いにふける時があったりする。その過程で楽しいことと苦しいことなどが繰り返され、永遠と考え続ける。多くの人は楽しい時間が永遠に続けば良いと思うだろう。このように人間の欲望や葛藤と、数学の複雑で広がりのある世界に永遠という共通点を感じた。そのため、永遠に続く道の中で人と出会い、思いふけることが出来る場所を提案する。



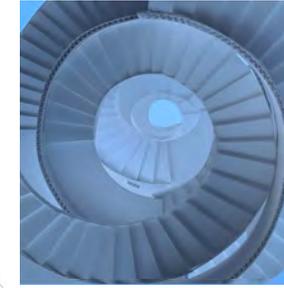
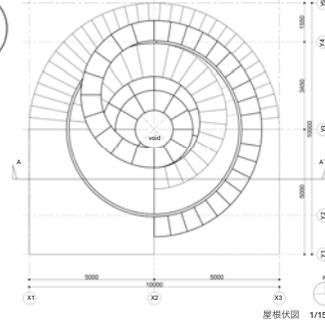
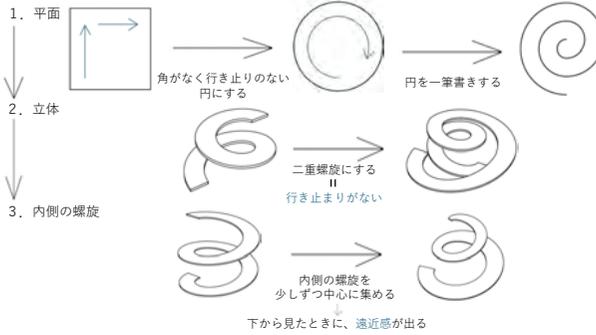
Diagram 1



開口を
上になるにつれて、小さくする

1. 内側から開放的な場と、集中できる場がグラデーションのようにになっている
2. 外側からずっと上まで(遠くまで)続いているように見える

Diagram 2



模型写真 (一階で見上げた時)



遠くまで永遠に続いているように見える

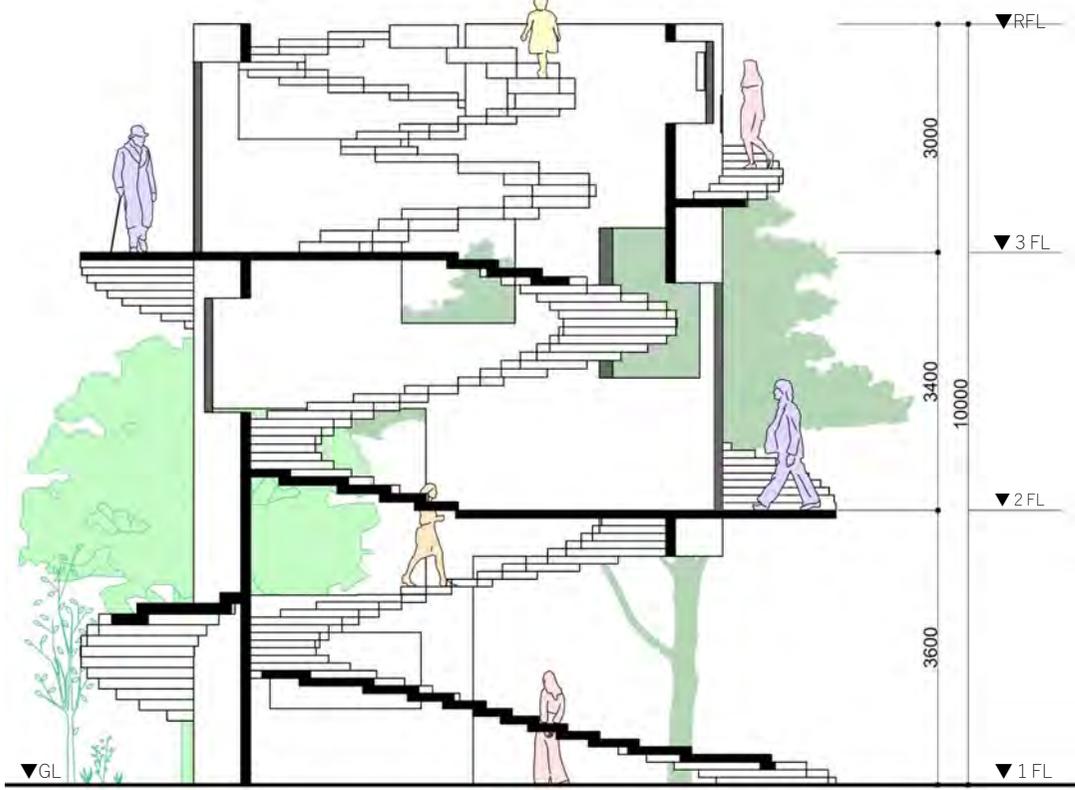
- + 階段の一段一段が積み重なっていく。(加えられていく)
「人との出会い、新しい発見...」
- ただの筒だった壁に開口をつくり、光を入れた。
「人との別れ、忘却...」
- × 幅×奥行×高さ=10m³の立方体の中にあるが、筒状の壁と螺旋階段があるため円形の印象が強い。四角い床を作ることで四角と円を比較し、融合している。
「相対、相乗効果、比例...」
- ÷ 大きな開口を、大きな数字で割るほど小さくて多い開口ができる。そのため、上に行くにつれて開口を大きい数字で割った。
「比較、反比例...」

Steps

階段の蹴上を100~140mmと低めにすることで階段の途中でもコミュニケーションをとることができ、移動中などの行動や思考の間である出会いを大切にしたい。

Opening

永遠とは、時を越えて存在するという意味がある。人工的に作られたものは変化し続けるため、自然の方が永遠に近いと思った。そのため、天井をなくし空が見えるようにしたり、二重螺旋で壁の内側と外側を繋げたりすることで自然との繋がりを意識した。また、開口が多いため光や影の変化を感じ、時間によって違った感じ方がある。



A-A' 断面図 1/50

